

畜産で利用が進む飼料用イネ

畜産試験場

乳牛は、毎日 30kg くらい牛乳を生産してくれます。えさの量は、牛 1 頭、1 日当たり約 30kg の飼料が必要です。えさの種類は乾草（乾燥させた牧草）の他に、とうもろこしサイレージ、大豆粕などの食品製造粕、穀物やビタミン、ミネラルなどが入った配合飼料などをバランス良く食べます。そのうち国内でまかなえる自給飼料は 3 割弱で、多くを外国からの輸入に頼っています。しかし、輸入飼料の価格は、ずっと高値のままで、農家の方はとても苦労されています。飼料代を少しでも抑えるために、自給飼料を利用する工夫をしています。

秋になると田んぼに置かれている丸い大きな物を見たことがありますでしょうか。あれは、稲発酵粗飼料またはイネ W C S（ホールクロップサイレージ：Whole Crop Silage）と呼ばれ、牛のえさとなります。穂と茎葉を一緒に収穫し、ラップフィルムで密封すると乳酸発酵した飼料ができあがります。この飼料用イネは、水田の転換作物として最有力候補に位置付けられ、自給飼料となる飼料作物として、作付面積が増えています。飼料用イネの品種は、「コシヒカリ」など食用品種の他に収量性、栽培性を改良した専用品種が開発されています。「たちすずか」と「リーフスター」は、食用品種より 4 割以上収量が増え、牛の消化性もより優れた専用品種です。畜産試験場では、飼料用イネ専用品種を低コストで生産する技術や、乳牛への給与方法に関する技術の開発に取り組んでいます。



イネ W C S

「たちすずか」の生育状況

担当者	小林 富雄	電話番号	0 2 6 3 - 5 2 - 1 1 8 8
-----	-------	------	-------------------------

[試験場だより・知って納得コーナーに戻る](#)

[畜産試験場に戻る](#)